

森本 玄

Gen Morimoto

ふと気付くと見慣れない木が勝手に庭に根付いていて、
数年で背丈をはるかに超えてきた。
大きな棘のある木で、調べてみるとスモモだった。
少し剪定し、一年寝かせて、枯れ枝を焚き付けにしようと鋸で細かくした。
その枝を燃す前に1本ずつナンバリングし、延々と置いてその経緯を記録した。
並べた順序は決まっている。
積み重ねていくと、もはやどのように並べたのかは数字なしでは辿ることが出来ず、混沌としてくる。

もし推測で遡ろうとすれば、芥川龍之介の短編「藪の中」のような、一つの状況が観る者によって異なり、複数の解釈を許すことになるだろう。

割り切れない事象、堆積する時間とその不可逆性について思いを巡らせながらモノタイプに展開した。箔を押しているのは最後に置いた枝の記憶である。